



芝草書方菊

山本八右衛門

三

芝草書方菊

特別  
9  
3908  
3



門 9  
3978  
卷 3

真盛 四方菊卷之三



一 さいもろぬ灸鳥を利切小ぬけとそら首おこ  
川東の大お撲と去娘をるか醫者の能毒

傳馬圖五十四



ぬけもろぬ灸鳥を利切小ぬけとそら首おこ  
と遠て早竟戲笑術の彼るれば。少れ張かといハ及  
急席禱と十法もかえら成。誠小先刻を指看るる身ま  
せうん。と。うらうく。時小續て疎じひるををかまじりて宗  
れも醫者のむけ素人のたし。かこりて。少れ。あせの  
凡後をるる。折小ハ町家職人商人など。只醫者のま  
と。あ。か。を。醫。書。の。和。解。し。つ。が。附。の。小。本。を。と。求。指

昭和二十八年  
三月十日  
購求

て不換金敷毒樹木の方紐を足。サハハ醫書ののと  
むのはしとれときてかりとあり小も人の脈線は是ハ肺  
介邪グク之時をどときて。ま身の一糸中ハさ小及守隣  
邪向ハ素木の鳥ハ朋友と小病人ガ有と。醫と接  
小粒まれゆるを収。まハきのどくハ色味分ハ戒見ん  
懸。小文女を出して友達の眼をかどろす。サハハのる  
ぐさこ醫者ガうと。一妻小あて管新と切愛を  
述。先別れも孫新とあ見はほしとが。と物と云微細を  
脈う九ツ時より。和ハして浮大不収はしと成。熱とん然  
き腹こ。是とハ一夜あかか減の附理の劑で。田陽はま

しこお病と存す守ぐらぬと。醫者ハ小りんごうの僕が出  
てはゆるグ入とあど。ゆるの夜射成をくとあんな男ハ評  
判と懸す守りのと成。おの素人の身へもあつぬ  
もかまらば。始終れととらんぶん漢譯して。命をよる  
うと。おてハ倍人のす遠有て病家のおわしとさ  
けり。志は廣い世かいるれば。醫者ともわが身の前室記  
と。おしと有。醫之醫の醫志。まきのじわ息あて。療治  
小血りまうとお色。よはせを懸て。け人育。げ板を人おま  
傾小文女。息を素人ハ出。息ふと。小気味。りる。よ醫の  
方から。めつ。よ生。よ素人。と。結構。不挨拶して。ま。板。板。

醫書  
卷之二

方後世家の意味を總の存場示しよりしてハニ黄やる膏劑  
であるれば由るぬふが有とほくく一勺で。お力の種醫入  
あどく毛しらして素人の事小きや成。何ものかを  
左根是ハ面白イ成社をこの事ト云。なると云と彼素人酒子  
小素安が醫者なれば。ふ学かすよハ公身は。杖をさめてその  
撰撰とらぬ。と醫者なれば。員員してふ安イ方へ肝入と。ま  
んまう瘡してくるあど。是でいふく下。お醫所ハ公を  
ろしかり死。あまふ又竹口除垣といふ醫所有るが  
び人う彼ま安記すの書を。杖柱よして療治をさす  
しと醫所。お流の流のあれう。是の足形の流を。漢文

書おあどとんせると。小人のりり。こを盡たので。あ  
いうといふ位。ふ文又屠之後の上包。揮竹口除垣。製  
と。判て。年始。申えの。これ。して。さる。醫者。老。成  
されど。牙の。口。り。も。足。若。さ。か。す。年。以。も。四。十。有。餘。僕  
も。一。人。百。つ。き。し。あ。人。の。代。大。勢。有。高。人。の。店。ぐ。え。と  
入。込。ふ。し。だ。る。人。扱。あ。ん。し。と。新。ま。る。い。ハ。あ。ま。り。取。も。か。ぬ  
お。び。除。垣。三。十。二。の。年。俄。一。醫。者。と。婚。て。年。七。の。時。と  
ま。た。つ。こ。三。五。の。恥。一。女。ハ。小。沢。を。男。十。四。経。絡。と。サ。一。斗  
ス。一。あ。かり。そ。あ。あ。も。灸。完。る。と。を。せん。ぎ。せ。じ。が。お。は。け  
除。垣。成。を。方。より。引。き。り。れて。お。あ。う。お。相。除。垣。中。風



と病ぬきふあぐんすくをまた冬ハ。擗鼻の穴が好ま  
むと。水はこごも細工小あらしまはも。さきこつあき  
すちよと息をおせと下ゆせといじが。擗鼻の穴は  
除垢をすすれせしう。一向はあぬのうわうど。あひが  
ぬし男を。経絡のしとあるはとらぬ。さくびとくうらハ。  
大と首筋のるん。お遠い有はとさひて。あひましと  
あ息いしてません。まきよまきよて首筋の瘰癧は  
しふく息をせん。とあられし。是ハ除垢板ごまされす  
擗鼻の穴ハ。膝の下の新骨の上のくろくこと。十四経絡  
小出ては残りす。首と足とハ。大なるかえ遠くと云ハ。除垢ま

こわくぬきぬき。おまはつらひとせはと。首筋の息を  
かきし。たの擗鼻ハ。膝の下の新骨の上のくろくこと。十四経絡  
しれ。このてれ。死のうらあり。又ニツめの死ハ。中系。丸を  
角走とて少新書し。されど。口説ゆり。と文婦。よ下  
二人。汁をふ。高人の亭。まきよて。の病も。あられど。  
人よす。られて。あれ。ちり。ふら。茶。ね。お。病。の。痰。を。若  
ま。あ。し。の。り。でも。ま。り。は。せ。ま。い。う。と。あ。ん。あ。ん。し。は  
男。かり。その。あ。も。あ。茶。を。用。て。お。く。醫。者。と。あ。ん。も  
質。あ。ん。中。より。す。め。ら。れ。て。は。比。少。の。痰。癧。症  
の。氣。味。ハ。除。垢。を。ね。ん。て。後。茶。あ。ら。る。中。く。引。込。る。



是を以て後よりとせと。扱す女房まきま思量しりょう八十人あるとあり。服  
 程ついで定められ身みおて。志こころとこころいんりのるるぐまのぞくハ  
 志こころあて二面いろはも懐よめ氏うぢ十日めのお撲うち碁ごの事こと  
 身をうけ碁の下したの引ひきしよ。入いまじくお撲うち碁ごを  
 されし。医い者しや者しや小こなる毒どく忌い本ほんの備そく小こ有あて。是こゝもま紙  
 撲うち碁ご小こして徳とくうるを好このおの事ことと五ごち之これて。除と垢ごの事  
 つきりかき多たるがけ除と垢ごいろは字じ、懐こめども。お撲うち碁ご  
 の名な二面一字と見みす。女房にようぼうり奠ま酒しゆの精せいをわの事  
 事ことと。いづこて成なり力ちから小こして進ま高たか小こ懐よめる也なり。是こゝハ五ご亭てい  
 至いたる也なり。と有ありて。西せい書しよ生せい大だい切せつしとる也なりのこと。也なり

〃お撲うち碁ごとりの名な哉や。せり死しんでサさ一いち分ぶん別べつ息いきたぐれ  
 て毒どく小こなる也なり。お小こハ息いきとけ又またまの事こととらら一いちからわおハ  
 丸まると身みてをまきとせられ第一だいいちかされよとて志こころふる懐よめ  
 くもぐましと。先まは二に京きやう勢せい油あぶらで。黄わう志しあてま  
 つてを味あじ嚼か汁じゆ小こあて。まきしゆても毒どくまある也なりと  
 いそて。稲いな川がわよ千せん田てん川がわと懐よめ一いち面めん息いきとけ。是こゝハ今  
 まの事こととつよすぎるといそて。友とも綱づな子こ和わ泉いん川がわとい  
 所ところへ丸まる成なり身みもはつとくささ合あはと。達たつヶ実みと  
 山やま一いち息いきとけ。是こゝハ少せう一いちつまつまつれよけいけいと也なり  
 うさい。まをて。息いきを細こまふますますまとて。釋しやく迦だ殿だんと



波戸が傍小すちつ。島衣身なるなど角を束女房お  
きとらんて。悦夫がらと小をくち人てつたります  
ゆ。幸は好むの松蓮やの。朝のじと者女のといふお  
と。二ヶ敷い字でまて。巻れまゝ。成る流を。醫りや  
松能が。讀らぬますと。撰撰して。身やか。一載し  
不。隣がより。たつけり男の子。つうくと。さありて。こ  
ふる角を束女と。こらの。髪をぬとす。よんよ。ま  
り。一ハ。所の。兄松と。足ふ。けは。こと。云。ぬ。彼。身。を  
足。身。これ。ま。務。真。身。か。ん。せ。ら。成。と。引。せ。是。公。女  
の。緒。の。身。身。十日。目。じ。や。ふ。ら。つ。て。釋。迦。獄。と。波。戸。が。傍

あ方の園と実がとる。びいる川ふせんと川のすまぶらんの  
い。夕の緒のすまふよ。点がかけこり丸の身てあるハ  
どうあつて。あ。じ。や。といふ。不。成。業。と。いふ。美。い。老。う。高。門  
あ。う。ら。り。為。り。し。あ。是。も。足。さ。を。ま。き。と。さ。う。あ。せ。ば。其。業  
も。お。撰。好。多。れ。ど。ま。く。足。さ。の。け。れ。ぬ。ま。ま。人。が。か。ハ。二。束  
川。束。の。お。撰。場。の。す。い。の。介。あ。ま。の。の。う。け。り。ま。て。務。ぶ  
身。と。一。遠。り。入。て。足。さ。を。ま。き。と。さ。う。あ。せ。ば。其。業  
と。ま。て。ゆ。り。秋。ハ。初。夜。時。か。を。隣。向。の。二。カ。た。と。合。ひ  
は。して。す。ま。ふ。の。ま。ま。を。知。移。り。し。て。居。る。男。の。身。け。ま。身  
を。ら。ん。て。ま。ま。の。身。成。是。ハ。い。ふ。一。と。あ。せ。や。夕。の。お。撰。の。緒

と云ふ事象はぬをせめてもさうさう尋ねて置ら  
ころ。従ふお探の勝負があれさういふ川と子田川  
兵のつけさばぶしとお勝負はさうさうけしと  
有管支細と和泉川は丸を身さへあるりしやまとお探  
がたそいせまいぐはねハハお探さうさうさうさうさう  
がまかつころさんと漬ぬはさうさうさうさうさうさう  
ろく眼でさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
の兵をお探あされて存り存子。今ハ除垣あたさ  
たあられず。一向ふうろくして。甚き事な事をさうさう  
拙志是う川東ハ藤治おれぬすのふたそさうさうさう

序よんてあらふとさう。序をまきむるんわもさう  
身代甚き事な存りさうさうさうさうさうさう。除垣  
もあしお探好しやと醫者の眷中とたきさハなんと  
孫お探りであらふさうの。えあさうさうさうさうさう  
② 六天ゆさうの太の男をさうさうして打返し。業お探  
細子の小袖ははれを包ハ被小名有お探との思事  
影も因り業ト返これハ角白お探りし。ませさむじ  
東洲小名醫と吹へし。去悪くの大醫有徳子町家へ  
藤治よりさうさう。佐の侍兼復元業おかこの二つを小  
あるさ。此さうさうは富家の地をハ下くさ。五者よ厚味

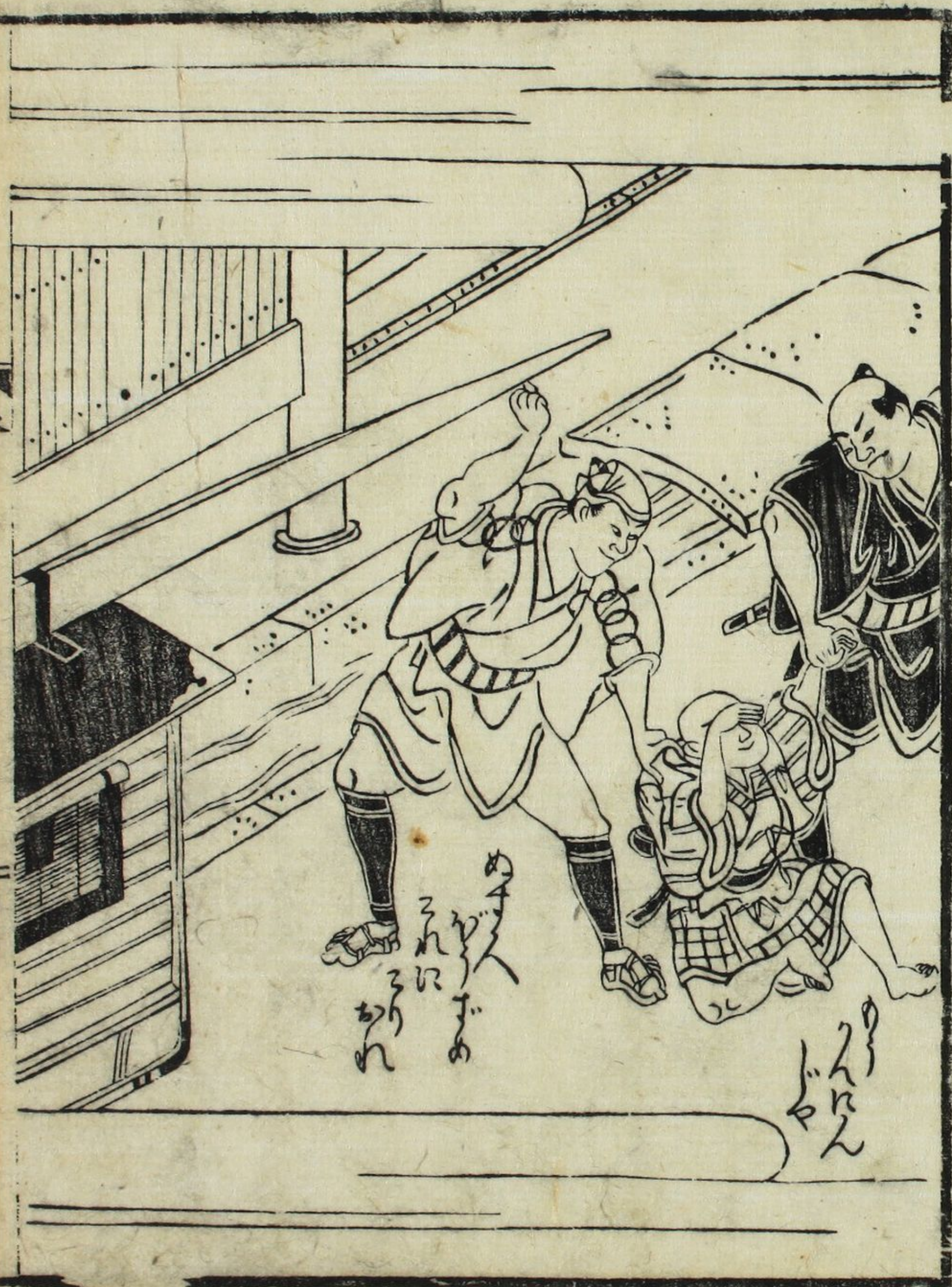
の秘教を授け、組合吸おし、圭臬をかして病人見、候は  
 此、秘教を授け、下秘わくと、いんのかする、秘秘ひたる、ゆ  
 自、何く、こ、い、天、も、二、王、の、業、の、湯、も、ろ、ろ、極、を、ゆ、り、と  
 して、業、日、ん、を、つ、か、つ、ら、ん、と、も、い、と、守、田、業、も、益、の、ご、り  
 る、事、と、小、氣、を、守、て、秘、我、と、す、る、と、應、り、の、と、あ、秘、の、事、  
 まで、氣、を、守、業、履、九、極、の、小、秘、を、け、つ、ふ、と、な、ら  
 と、中、夜、の、さ、る、事、は、何、て、を、差、堂、が、眼、と、割、て、あ、る、か、と  
 何、り、さ、す、と、か、し、ハ、皆、何、ら、ら、ろ、ろ、網、を、け、家、秘、ら、業、の、生  
 貝、と、製、斗、の、身、と、二、對、定、生、の、さ、は、業、秘、の、ま、ま、と、  
 ぬ、生、肉、を、傳、書、じ、さ、る、所、か、さ、つ、して、秘、居、る、時、ふ、ま、お

の、子、他、門、の、二、三、人、も、い、ん、ろ、く、極、び、居、る、が、中、秘、時、を  
 二人の子とも、八、密、之、ゆ、り、一、人、秘、匠、男、の、子、を、さ、ひ、六、つ、に  
 ぬ、ろ、ろ、ハ、横、所、の、裏、信、屋、よ、あ、る、業、職、人、の、世、傳、親、ハ  
 後、世、よ、せ、と、い、く、何、秘、を、教、へ、る、と、い、ふ、り、も、ろ、く、勿、論、  
 中、秘、死、あ、る、ま、を、守、る、り、も、ろ、く、ふ、い、せ、傳、せ、間、ま、ま、し、秘  
 見、ぞ、く、業、と、た、と、ん、方、ろ、ろ、秘、秘、と、坊、主、醫、師、の、位  
 の、老、師、を、服、つ、ろ、ろ、小、業、お、の、と、と、つ、と、め、て、ん、ろ、ろ、を  
 う、ろ、く、已、ら、右、せ、ら、く、と、秘、め、る、事、は、は、に、ま、業、お、の、中、へ  
 遠、入、て、之、を、志、め、結、集、る、所、堂、の、と、へ、の、り、志、せ、ろ、ろ、く  
 う、い、て、あ、い、く、秘、ひ、ぞ、ろ、ろ、と、あ、る、く、さ、ろ、ろ、の、秘、也、ら、ろ、ろ、を、秘、る

しやぬの糸あぢみかきし。あくさをとれて見れば。け坊ま  
 生れてうら二女も足ぬ。蔭縁の小提籠。おとをうよふ  
 ち成めんとして。ちやつと山ろぐ。又も成敷。うんうくあを  
 めて。黄あめ一切。つまも喰て。右打し。梅干の肉。何急はこ  
 紫蔭の突と。一口喰ふて。はすめと。月板のあまを  
 一切く。はちつくり。そろく。版紙。あてせ。まうけ。居る時  
 佐の忠を。酒飯。あま。ま主人。あま。佐のあせ。う  
 けち。醫者。ま。何日。よ。今。二軒。ゆる。藤。佐。場。有。し。あ。の。り  
 おふの。守。歩。び。て。あ。られ。ば。若。葉。あ。り。丸。ま。人。よ。む。つ  
 を。あ。れ。と。後。て。あ。た。た。何。の。氣。も。守。守。あ。お。か。さ。上。三。足

二足あつて。いられ。ば。紫。お。の。心。あ。て。後。日。ん。を。く。坊。ま。が。レ。ア。ク  
 と。よ。て。あ。ぢ。上。ケ。足。指。子。を。離。て。版。板。子。あ。た。た。む。り  
 かりせし。八。程。り。紫。お。わ。ゆ。さ。く。と。さ。り。し。は。後。つ。あ。て  
 紫。お。を。打。あ。せ。し。ぐ。横。よ。る。げ。さ。ら。う。あ。て。紫。お。は。う。り  
 へ。さ。け。し。ぐ。彼。日。ん。ぐ。坊。ま。は。よ。な。成。し。方。の。う。を。打。傷。て  
 大。及。一。飛。が。我。右。に。て。あ。け。め。を。う。た。た。む。つ。う。う。あ。ら。う  
 中。あ。れ。ど。机。程。の。ま。ご。と。を。有。中。を。あ。ら。う。あ。ら。う。一。度  
 も。ま。ぬ。む。つ。う。り。見。れ。ハ。窓。あ。ら。う。推。ひ。あ。り。し。小。世。傳。め。で  
 ば。さ。と。あ。ら。う。後。了。を。あ。れ。と。推。小。ぶ。し。あ。て。天。窓。開。け。あ  
 くら。う。守。あ。ら。う。後。番。あ。の。口。より。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。小





てまいりてあつてせよと云うに云ふてえはしき。養味おどや  
 あつたか。醫者極の業おの肉よ有。版やそのを唱極  
 小らと一ころ。氣やわが能きて乳もよふお中らと云ふて  
 版もさつと業おの中小有。字の事と紙を引さいて色  
 ておていのうと云ふ中。小業おをいごをよも云ふ  
 がなきよアレ。と云うので中なり事。と一ハ益人はあつて  
 色か極の氣やわを能して乳のでらふよあさるよ志ほ  
 こが醫者極もふんふん。あのがち極も法忍してと  
 ちよ志あつて下され。ふ是か。えなるハ名も中をせぬと  
 云と斗ふ。ほごせハ彼醫者と法なり。人目も能守法と

瀧でしと坊よ。然しやと云ふ病氣と瘧して居るや。と  
 ちもやの。醫者よすらどよほなくと云て。ほれ。あさ  
 實者の中。何ん。紗。後や。版子や。縮。細の。小。神。と。云。つ。かり  
 抱あめて感ずら。實も良醫をん。又ハ醫者ハ町内  
 今一軒の療治と勤て。中。何ん。親を。ほ。れ。一。町。内。ハ。勿  
 強。強。氣。の。六。尺。を。知。心。の。孝。行。を。感。也。も。理。り。所。中  
 の。人。を。取。合。醫。師。と。上。座。は。て。彼。親。ハ。極。子。を。問。は。さ。せ  
 侍。さ。さ。の。ち。ん。は。ら。極。版。の。後。女。と。て。甲。子。何。り。の。男。七。十  
 九。女。成。を。母。子。位。二人。如。房。が。産。後。より。一。年。何。り。の。病  
 氣。一。亭。ま。が。持。病。の。氣。を。能。おん。き。う。よ。せ。ま。り。ハ。ア。成。婦。婦

ことくさ里へ言ひあはれ賣代を後り。けいり傳めも官  
 川前へり。と捨すふ。何をすも腰練のまぬ。をぬとす  
 小書すす小いさ。方なく。我く。はご。ただ。の。も。年。の  
 不仕合。世は。子。と。賣。ま。せ。ふ。と。存。す。す。下。ふ。と。傳  
 と。す。て。い。よ。く。極。子。お。知。れ。醫。師。の。金。十。五。合。力。あ。れ  
 し。所。中。と。して。金。を。取。出。し。彼。家。より。あ。ま。な。い  
 後。ろ。と。不。測。あ。て。て。ら。ぬ。を。後。の。我。か。傳。を。と。せ。ん。は。よ。す  
 る。と。は。は。く。さ。よ。か。く。の。お。と。考。集。り。し。一。冊。の。二。冊。は。よ。百。五。十  
 の。有。金。彼。か。醫。老。の。療。治。で。せ。居。る。の。書。居。し。が。く  
 して。孝。弟。の。小。児。名。ハ。思。案。と。い。ふ。を。千。孝。と。改。刻

は大醫の亦子よとれ。る。が。子。受。人。よ。す。と。れ。上。巻。下。巻。の  
 年。と。よ。あ。ま。の。く。の。書。を。と。ん。ト。知。少。り。金。の。を。衆。お  
 少。せ。せ。よ。と。ら。く。さ。ま。も。物。の。醫。師。と。あり。今。ハ。世。に。是  
 存。よ。と。ら。れ。病。後。千。孝。先。主。と。い。ひ。人。と。も。ア。り

皇盛四方菊卷之三終



山本